

平成25年4月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859）

多摩川のアユの遡上

多摩川の天然アユは、秋の、水温が14℃に下がる11月ごろに下流域で産卵をし、その一生を終えます。生まれた仔魚は川を下り、冬場を東京湾や河口付近で過ごします。春、桜が咲くころ大潮に乗って遡上を始め、5月に遡上のピークとなります。

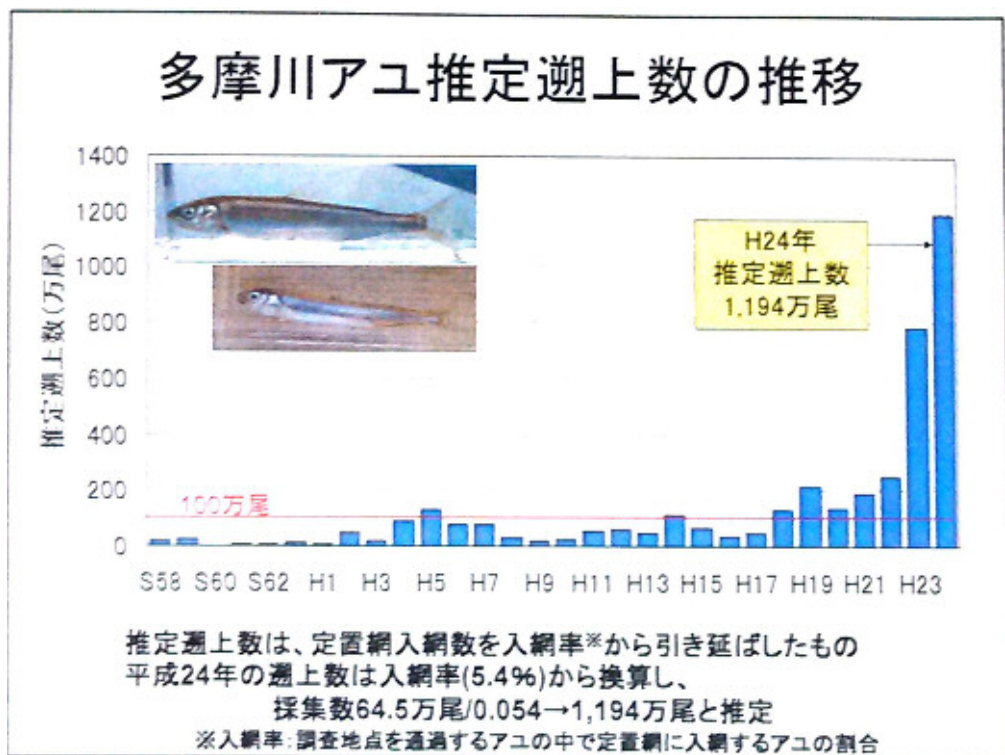
以前、多摩川は、昭和30～40年代には人口増加、高度経済成長による水質悪化によりアユの遡上が全く見られなくなりました。昭和50年代に下水処理が進み、少しずつアユが戻る様になりました。しかし、昭和20～30年代に造られたコンクリートの堰のために、その遡上が妨げられていました。

平成4年度に、当時の建設省により、多摩川が「魚がのぼりやすい川づくり推進モデル事業」に指定され、堰に魚道が設置される様になりました。何度かの魚道の改良工事により、特に平成14年の日野用水堰の魚道のハーフコーン化によって、秋川や多摩川の福生市で天然遡上アユの姿が確認できるようになりました。

青梅市の多摩川の下流には羽村取水堰があり、歴史的に重要な「投渡堰」となっています。そのため魚道は右岸側にハーフコーン型が設置されておりますが、水量の問題や羽村第2、第3堰のため、羽村取水堰を越えてのアユの遡上がいまだに困難な状況とな

っています。

多摩川の天然アユの遡上量は、下水道の普及に伴い年々増加し、平成18年度以後100万尾を超え、23年度780万尾、24年度の昨年は推定1,196万尾となりました。（表Ⅰ）



表Ⅰ



写真 I

昨年は6月下旬の台風により、多摩川が増水し、それにより羽村取水堰を越えた天然アユの遡上が確認されました。写真Iは、昨年7月11日に天然遡上アユがコケを食べた跡（ハミアト）のある石を撮影したものです。

東京都島しょ農林水産総合センターのアユ標識放流調査によると、青梅市水の公園の鮎美橋付近で4尾の標識放流魚が確認さ

れました。この標識放流アユは、大田区のカス橋（河口より11km）上流で放流されたものです。表IIは、標識放流魚再捕獲調査結果を表したものです。8区は昭和用水堰（秋川合流点の下流）～羽村取水堰、9区は羽村取水堰～小作取水堰、10区が小作取水堰より上

標識放流調査結果

西暦	平成	浅川	早井川	秋川	多摩川											再捕数	標識放流数	再捕率
				上流	下流													
				12区	11区	10区	9区	8区	7区	6区	5区	4区	3区	2区	1区			
1992年	4年										4	1	10		421	436	19,202	2.27
1993年	5年				1							1	6	8	786	802	31,242	2.57
1994年	6年				14	1		2	1	5	5	25			804	857	20,544	4.17
1995年	7年				32	1		3	8	4	34	37	493	—		612	11,210	5.46
1997年	9年									1	1	8	2		10	20	10,720	0.19
1998年	10年									2	1	6	15	5	4	33	9,432	0.35
1999年	11年				1											112	10,419	1.07
2000年	12年											5	34	3	31	75	10,752	0.70
2001年	13年							1		2	9	4	6	44		66	19,254	0.34
2002年	14年				1						3	3	20	1	4	32	12,713	0.25
2003年	15年				10	9	2		13	2	1	13	19		4	71	9,357	0.76
2004年	16年				6	11			4					1	52	78	11,573	0.68
2005年	17年				4	6			28	1	1				15	54	4,239	1.27
2006年	18年				11	4									19	37	10,340	0.36
2007年	19年				12	11			2	2						47	5,041	0.93
2008年	20年							16					1	5		26	7,488	0.35
2009年	21年					3			20	8				2	1	34	6,508	0.52
2010年	22年				1				19	8			1	2	3	99	17,159	0.58
2011年	23年				15	67		1				5		2	9	99	17,159	0.58
2012年	24年	1	5	20	22	4		2	15	3			4		27	71	29,171	0.24
					1	27			7	3			2		31	103	28,092	0.37

※数値はあくまで再捕報告数であり、遡上割合を示すものではない

表II

流です。これによると秋川では近年数多くの標識放流魚が確認されており、実際に秋川では10月になってもアユの姿を目視で観察することができます。それに対し、羽村堰より上流の9区、10区での再捕獲数が少ないことが残念です。

昨年、私が羽村取水堰より上流の天然アユのハミアト調査を行ったところ、推定数千～1万尾が羽村取水堰を越えたと思われます。青梅では羽村取水堰の明治期の改修によって、天然アユの遡上が妨げられるようになって以来、100年ぶりの天然アユの確認となっています。今年は更に沢山の天然アユが青梅市まで遡上してくれることを期待しています。

（文責 大久保芳木）